

道路パフォーマンス向上に向けた 新たなエリアマネジメントとしての共同配送社会実験の取り組み

- ・上村 達也 (国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部 都市圏道路計画課)
- ・澤 充隆 (北海道モビリティデザイン研究会(株式会社ドーコン))
- ・宮崎 貴雄 (国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部 都市圏道路計画課)
- ・小池 敦史 (国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部 都市圏道路計画課)
- ・萩原 亨 (北海道モビリティデザイン研究会(北海道大学))
- ・山本 郁淳 (北海道モビリティデザイン研究会(株式会社ドーコン))
- ・大野 裕次 (国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部 都市圏道路計画課(前職))
- ・服部 彰治 (札幌大通まちづくり株式会社)
- ・矢野 伸弥 (札幌市建設局総務部 自転車対策担当課)
- ・前田 哲哉 (国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部 都市圏道路計画課)

① 目的と背景

【取り組みの目的】

札幌都心部において、本格的な荷さばき車両対策を進め、「歩いて楽しいまち」を実現する。

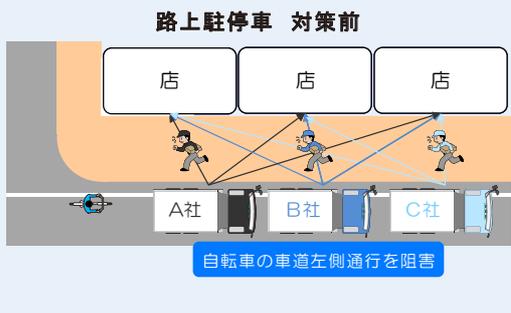
【背景(荷さばき車両による影響)】



② プロジェクト内容

【現状の路上荷さばき】

1台のトラックによる複数の荷受け先への配送が長時間駐停車を助長。



【共同配送社会実験の概要】

期間：平成27年10月29日(木)～31日(土)
 主体：札幌都心部自転車対策協議会
 内容：路外のストックポイント(荷物の一時保管場所)を活用し、複数の運送事業者が持ち込んで集約された荷物を、特定の運送事業者が台車で配達。



③ 効果

【共同配送の状況】

ヤマト運輸(株)が運営するストックポイントで約千個の荷物を取り扱った。

ストックポイント活用状況



【共同配送社会実験の効果】

実験対象路線であった西5丁目線での停車車両台数は朝夕ピーク時間帯で半減し、自転車の車道通行の安全性向上が確認された。

荷さばき等停車車両数の変化



※実験協力：札幌地区トラック協会
 ストックポイント運営サポート：ヤマト運輸㈱

	実験前	実験中
朝	31台 (10/6(火) 8:00-10:00)	16台 (10/29(木) 8:00-10:00) 【48%減少】
夕	13台 (10/6(火) 17:00-19:00)	6台 (10/29(木) 17:00-19:00) 【54%減少】

※集計データは、08:00～10:00、夕17:00～19:00における停車車両台数(貨物車)
 ※調査箇所は、市道西5丁目線 南1条通～南2条通区間

④ 結論

【今後の方向性】

札幌都心部では、平成28年度の道路局社会実験として荷さばき実証実験※が採択。引き続き検討を進めるとともに、エリアマネジメント主体である札幌大通まちづくり会社が共同配送活動を含み、道路協力団体の指定を目指す。

※道路空間における価値向上のための民間活力による持続可能な荷さばきエリアマネジメント実証実験

【「歩いて楽しいまち」を目指して】

今後の取り組み

